

# ベテラン教員研修講座(高・特)

茨城県教育研修センター  
教職教育課  
☎0296-78-3212(直通)  
平成30年12月7日発行



第1日  
10月4日  
実施

近年の教員の大量退職、大量採用の状況下において、学校には、教員がともに支え合い、ともに高め合える組織集団であることが求められています。OJTの機能を生かしながら日常的に学び合う校内研修の充実や、自ら課題を持って自律的、主体的に行う研修が必要です。そこで、中堅後期を過ぎた経験豊富なベテラン教員が、学校の中核となって研修をリードしていくことが、新たな

役割として大きく期待されています。

教員は、自律的に学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて、求められる資質・能力を生涯にわたって高めていくことのできる力が必要とされています。

茨城県教育委員会では、教員の資質向上指標に基づき、「ベテラン教員研修講座」を新設し、2日間の日程で開催しました。

## 研修の様子

講義『これからの学校に求められるベテラン教員の役割』



教職教育課 高瀬 宏樹 主査の講義でした。  
「ベテラン教員の役割として、校長の経営方針のもと、学校教育に関する企画立案、連絡・調整、そして若手教員への指導・助言ができるようになることが大切である。」と伝えました。

講義『これからの時代に求められる資質・能力を育成する学習指導』



横浜国立大学 高木 展郎 名誉教授の講義でした。  
「子供たちは、担任や教科担当を選べない。教員が組織として、子供たちに向き合う『チーム学校』として、汎用的な資質・能力を高める授業づくりが大切である。」とのお話をいただきました。

講義・演習『カリキュラム・マネジメントの推進』



千葉大学 天笠 茂 特任教授の講義・演習でした。  
「カリキュラム・マネジメントとは、全ての教職員の参加によって、教育課程の編成・実施・診断・評価・改善を通して、学校の特色を創り上げていく営みである。」とのお話をいただきました。

## 受講者の声

- ・カリキュラム・マネジメントは、イメージしていたよりも身近なものであることが分かり、推進する必要性を感じました。
- ・ベテラン教員として若手・中堅教員への指導・助言ができるようにならなければならないと自覚しました。
- ・自分が受けた授業方法と現在求められている授業方法が異なっている世代なので、自己研鑽の必要性を実感しました。
- ・学校全体が一つになって力を合わせて学校運営に参画すれば、子供たちはもっと幸せに近づくのではないかと感じました。そのためにも我々の世代がアクションを起こさねばならないと感じました。

# ベテラン教員研修講座(高・特)

茨城県教育研修センター  
教職教育課  
☎0296-78-3212(直通)  
平成30年12月7日発行



第2日  
11月16日  
実施

ベテラン教員研修講座を通して、若手や中堅の教員を指導・助言する学校の中核的存在としての資質・能力を伸ばします。2日目は特に、自己の崇高な使命を深く自覚し、コンプライアンス意識を高めることがねらいです。

## 講義『教職員の信用失墜行為の事例』



つくばね法律事務所  
関 健太郎 弁護士

信用失墜行為の結果起こりうることを、法的な観点から知ることができる内容でした。行政上の責任、刑事責任、そして民事責任を問われることが具体的に説明されました。また、信用失墜行為を行った職員の家族、本人の再就職やその後の生活に対しても大きな影響を与える事例が紹介されました。

## 講義『教職員の生活設計』



谷田部猛税理士事務所  
谷田部 博貴 税理士

懲戒処分を受けた場合の生活への金銭的な影響等の話がありました。受講者の感想には、「ライフプランニングについて詳しく知ることができ、将来の生活設計も考えて仕事をしていかなければならないと感じました。」という記述がみられました。

## 講義・演習『学校の危機管理』

日本女子大学 坂田 仰 教授



茨城県教育研修センター  
特別支援教育課 飯塚 裕治 主査



(高等学校部会) 裁判例の動向を分析し、学校経営、教育実践に存在する“落とし穴”を発見するとともに、科学に裏打ちされた危機管理について考える内容でした。

(特別支援学校部会) 現場での経験に裏打ちされた特別支援学校ならではの危機管理の在り方についての内容でした。演習では一つの学校事故の事例をもとに、ベテラン教員自身の危機管理能力、若手教員への指導・助言力が問われる3つの課題が出され、受講者各自が真剣に取り組みました。

▼演習課題について話し合いました。



▼3つの演習課題に真剣に取り組みました。

